

7 / 16

## 名門男子新体操部から 努力の大切さ学ぶ



平成28年度全国選抜大会宮城県代表の宮城県名取高校の演技

(一財)紫波町体育協会主催の「トップクラブに学ぶ 男子新体操」が総合体育館で開かれました。盛岡市立高校・青森山田高校・宮城県名取高校の男子新体操部が南東北インターハイに向けたシミュレーション演技を披露。新体操ジュニアチーム「ホークジュニア」の可愛い演技も披露され、来場した約450人が大きな拍手を送りました。古館小3年の白野心美さんと赤坂春菜さんは「選手たちがどうやって回っているのか不思議です。回転がとてもきれいでした」と感動していました。

7 / 11

## 中学生が幼児たちと ふれあい



子どもたちもお兄さん、お姉さんたちと遊べて楽しそう♪

紫波第一中学校(千田幸範校長)の3年生は7月3日～21日のうち7日間、7クラスが町内3カ所の幼稚園・保育所に分かれて保育実習を行いました。7月11日は3年3組の10人が古館保育所を訪問。1～5歳の各クラスを2人ずつ担当し、水遊びや手作りおもちゃの製作などを通じて子どもたちとふれあいました。平野未琉さんは「担当した4歳児は、とても小さくて可愛かったです。幼児たちと仲良くなりたいという目標が達成できました」と笑顔でした。他の生徒からは「この経験を将来に生かしたいです」などの感想も聞かれました。

7 / 20

## 青年海外協力隊員が 帰国報告



「子どもたちに『算数が楽しい』と言われたことがうれしかったです」と笑顔で話した佐藤さん

彦部地区の佐藤晴花さんは独立行政法人国際協力機構(JICA)が行う青年海外協力隊の任期を終え、熊谷町長を表敬訪問しました。平成27年3月に大学を卒業後、同年7月から10月までバングラデシュ、28年3月から29年7月まではサモアの公立小学校で算数を教えた佐藤さん。参加のきっかけは「人と違う経験をし、その経験を日本の子どもたちに伝えたいと思ったこと」と話し、「さまざまな壁を乗り越えて任期を終えることができ、自分に自信ができました。今後は、地域と子どもたちとのより良い関係性づくりにつながる活動ができれば」と今後の抱負を語りました。

7 / 19

## 思いやりを大切に 孫世代のための認知症講座



講話や紙芝居を通じて認知症をより身近なものとして捉えた様子でした

紫波第三中学校(佐々木徹哉校長)の1年生42人が「孫世代のための認知症講座」を受講。講師を務めた岩手医科大学の高橋純子さんは「記憶力や判断力などの脳の機能が低下しても、喜びや怒り、悲しみなどの感情はこれまでどおり残るので、話をするときは優しく、笑顔で接することが大切。できることや得意なことをできるだけ続けることが認知症を遅らせる方法と考えられています」と話しました。伊藤聖華さんは「認知症の人に対しては笑顔で話しかけ、困っているときは優しく声を掛けたいです」と理解を深めた様子でした。

7  
29~30

## キャンプを通じて 避難所体験



ワンタッチパーティーには利用する人たちの名前が分かる表札をつけました

「あかいし防災キャンプⅢ」が赤石小学校で開催されました。「チーム赤石 子どもの育ち応援推進の会(高橋浩会長)」主催で3回目。児童約40人が体育館の避難所を想定したワンタッチパーティーでの宿泊を体験したほか、かまどづくりから調理まで自分たちで行ったカレーライスを食べました。また、岩泉町在住の千葉敏行さんが昨年の大雨災害の様子を講演し「避難所では情報の確認、協力が重要」と訴え、参加した赤石小4年の藤原一紗さんは「避難所では場所をみんなで使えるように譲り合いの心が大事だと感じました」と気づきを話しました。

7  
22

## 川に入って 豊かな自然とふれあう



捕まえた水生生物を観察する子どもたち

環境マイスター紫波(佐藤喜一会長)主催の「あかざわ川自然学校」が赤沢川と赤沢公民館を会場に開かれました。毎年多くの親子が集まる人気イベントで、今年で6回目。71人が5つのグループに分かれて川に入り、ヘビトンボやトビゲラなどの水生生物や、ヤマメを見つけて観察しました。古館小2年の鳥居美咲さんは「アメンボやカニ、手よりも足が長い虫も見つけることができました」と驚き、日詰小1年の八重樫結人君は「川の水が冷たかったです。初めて虫を触れました」と胸を張っていました。

7  
30

## 四季を通じて 紫波の魅力を発信



秋には東裏公園で「しわくらす秋」が開催予定です

旧保健センター北側の東裏公園で「しわくらす夏」が開かれました。昨年開催されたリノベーションスクールの仲間が集まり結成された「しわくらす(佐々木琢子代表)」が主催。町内の飲食店やクラフトのほか、親子遊びワークショップ、紫波町図書館による出張としょかんや青空おはなし会も開かれ、親子連れが多く訪れました。佐々木代表は「日詰のまちには楽しい場所やほっとする場所がたくさんありますが、そのような場所をもっと増やしていけたらと思っています。これをきっかけに町や日詰のことを知ってもらえれば」と思いを話しました。

7  
29~30

## 町民癒して20周年 町自慢の「美人の湯」



子どもたちお楽しみの紙飛行機大会。優勝記録は13.7mでした

ラ・フランス温泉館は開館20周年を記念して、29、30の両日、大感謝祭を開催。2日間で約3000人が来場しました。30日は飲食店の屋台や遊佐会さんさ踊りが披露されたほか、高所作業車やクラシックカーなどの珍しい自動車も並びました。水分地区からひ孫と一緒に訪れた藤原ヨシエさんは「週1~2回は温泉に浸かっています。泉質が良く、傷跡などもきれいになるので気に入っています」と話しました。ラ・フランス温泉館は平成9年4月に開館。アルカリ性単純温泉で「美人の湯」として知られ、平成28年度の温泉利用者は約17万7000人でした。